全日本民医連　第45期　保育オンライン交流集会　概要報告

【日　　時】2023年９月９日（土）13：00～17：00
【会　　場】オンライン
【参加対象】①保育士および保育所職員（病児保育を含む）②保護者（職員）③法人・事業所の管理者④小児・母子医療関係職員⑤その他、県連・法人が必要と認めた者
【参 加 者】42名
【獲得目標】①多様化した保育情勢を共有し、保育の原点を学ぶ場とします。②民医連活動に求められる運動と保育実践の交流の場とします。③一人ひとりの保育士が日々の保育に展望を持てる交流会とします。

【開会あいさつ】

全日本民医連　保育世話人代表　長谷川清美

いのちが大切にされ、安心して暮らせる格差のない社会こそが私たちの願い。医療・介護の現場で働く保護者の就労を支え安心の医療を提供し続けるために、院内保育所の存在は不可欠となっている。今こそ明日の保育実践が楽しみになるような学びをし、院内保育所の役割について討議を深め、悩みや実践を交流し合い「院内保育所が担うべき保育」について再確認しよう。

【開催にあたって】

全日本民医連　保育世話人
川上隆子，日比野美津代，村越ルミ

（保育をめぐる情勢）昨年愛知県の保育士が中心になり「子どもたちにもう一人保育士を！」運動が起こり全国へ広がりました。保育所での悲惨な事故や不適切保育の事件もあり、75年ぶりに配置基準が4.5歳児25対１へ、56年ぶりに１歳児５対１へと改善すると打ち出しました。しかし、保育士不足は深刻で配置基準の改定とまではいかず、配置した園には加算申請での対応となりました。全国の保育者が声をあげ、改善点を大きな一歩として確認したいと思います。引き続き「すべての子どもに、子育て世帯に切れ目なく支援」が現実となるよう運動を広げ子ども家庭庁へ現場の声を上げていきましょう。

［全国の院内保育所］コロナ禍を経て、「保育」が社会機能を支える重要なインフラであると社会に広く認識されるようになりました。さらに、院内保育所がその機能を維持することは、医療を支え、地域社会を支えることにつながります。医療従事者を確保するためには、数だけでなく、質も含めた院内保育所の整備が一層求められています。

［民医連院内保育所］実態調査から、運営形態や補助金・助成金は多種多様の中で保育士確保に苦慮しながらも、院内保育所の役割として、「認可保育所と併用して院内保育を利用する児童」や、「認可保育所で補えない保育時間の対応」が求められ対応していることがわかりました。民医連の理念に携え、人間が人間を育てる営みとしての豊かな保育を目指し、どのように運動し、どのように声をあげていくことが大切なのか、私たち保育士が力を合わせて考えていくことが重要です。

［全国保育団体連絡会（以下全保連）に結集し地域を基盤に運動を進める］　保育世話人会では、「保育世話人会 minmin ニュース」を、保育所へのメール配信に加え、今期から全日本民医連看護のホームページ「きらり看護」へのアップロードを通し保育情勢や保育に関わる情報などを広く発信するようになりました。全保連に集結する保育所、保育士、保護者と一緒に保育運動に取り組み子どもたちがどこに住んでいてもより良い保育環境が保障されるよう一緒に声をあげていきましょう。

【2023年保育実態調査報告（民医連の院内保育・病児保育）】

全日本民医連　各保育世話人

1950年代に開設した院内保育所は2023年現在病児保育所と合わせて96施設です。法人調査回答率68％、保育所調査回答率51％でした。運営形態は認可外の運営が多く７割（企業主導型含む）。そのうち「認可外保育施設監督基準を満たす旨の証明書」の保有率は56％でした。補助金・助成金を受理していない認可外保育所は約３割ありました。夜間保育の実施は、75％と高い実施率です。保育士の確保状況については、56％が苦慮していると回答、困難な理由は、応募が無い・休日や当直勤務がある・給与が低いなど、確保に困っていない保育所でも保育士の高年齢化と後継者育成に課題がありました。保育運営委員会は、保育所職員以外に保護者、労働組合が構成員である保育所が６割でした。保護者や労働組合、病院の様々な立場の関係者が

保育運営員会に参加できるよう今後も追及していきましょう。取り組みでは、「共同組織に関連する取り組み」43％や「小児科または子育て支援などの活動」37％が行っていました。また、児童虐待対策では、多い順に「研修参加」「虐待対策検討」「虐待マニュアルの作成」等ほとんどの保育所で虐待に対する取り組みがされており、児童虐待対策の責任者を配置している保育所もありました。院内保育の役割として、待機児童の受け皿の機能、保護者の勤務時間（夜間・休日含む）に対応した柔軟な保育、病児・病後児保育が多く求められています。また今後の運営方向では、現状維持が最も多い回答でした。今後、少子化の影響などで、保育環境にどのように影響があり、院内保育にどのように影響してくるのかを見極めていくことが重要です。民医連の理念に携え、人間が人間を育てる営みとしての豊かな保育を目指し、どのように運動し、どのように声をあげていくことが大切なのか、私たち保育士が力を合わせて考えていくことが重要です。（詳細は、2023年保育実態調査参照）

【指定報告：様々な団体とつながって】

全日本民医連　保育世話人　吉田容子

どんぐり保育園は、1976年１月１日認可外の院内保育所としてアパートの一室で、園児４名保育士２名からスタートしました。その後、一軒家へ移り、園児が増え定員20名の新園舎へ転居しました。当初園児は５名まで減り廃園も危ぶまれましたが、介護施設開設により職員増加や、宮城県のあかつき保育園（現草の実保育園）見学等を通して保育の見直しを行い、その後園児が増え2017年４月～地域型保育事業の事業所内保育所として運営を開始しました。職員は入退職もありましたが、常勤１名から９名となりました。今のどんぐり保育園が決して完成形ではなく、これからも子供を真ん中に、様々な改善、工夫をしながら安全で平和な暮らしが守れるように実践していこうと思っています。

【指定報告：企業主導型認可外保育所としての運営と課題】

全日本民医連　保育世話人　村越ルミ

おひさま保育園は、千葉県流山市で、病院直営の認可外院内保育所として運営していましたが、2017年10月より施設建て替えを機に、企業主導型認可外保育所となりました。今後、企業主導型保育事業が少子化でどのような影響を受けていくのか不安があります。認可保育所を整備して増やしていくのではなく、市区町村が関与していない企業主導型保育所を増やしてきた事にも問題はあるのではないかと考えています。子ども家庭庁が設立された今、子どもの人権がきちんと保障された保育として、全ての保育所が認可保育所と同等の支援を受けられるように、また子育てしている保護者を社会全体で支えていけるよう、これからも声をあげていきたいと思います。

【学習講演：おいしく食べて大きく育つ～今大切にしたいこと】

山崎　祥子　氏
（株式会社ブライト・らく相談室　まなえだ）

新生児からの舌の動きや嚥下の機能、発達に合わせた離乳食の形状の工夫など詳しく話されました。摂食指導の目的の一番は「安全にたべる」という事。姿勢や集中力など観察し、もしもに備えて予防と処置をしっかり学んでおくことが大切。月齢や年齢でなく目の前にいる子どもに合わせる事が大切。「食べない」を好き嫌いと決めつけず食べない要因を探すこと、「食べる」ことだけに焦点を当てず、生活リズムや活動などの見直しなど保護者とともに行っていく必要もある。大切なのは「楽しく食べる事」で嫌がるものを無理に押し付けてはいけない。子どもは基本『酸っぱいもの』『苦いもの』『辛いもの』は苦手。酸っぱいものは腐れていると感じる本能で、苦い、辛いも危険を察知している。野菜は苦い物の部類に入るので野菜が苦手な子は多く、偏食が激しい子は感覚過敏があることも多い。「好きなものを増やし」長い目で大らかに関わっていくことが大切と話された。保育の中で忙しい給食時、早く食べさせていないか？「好き嫌いなく何でも食べられるように」との思いが強くなっていないか？改めて食の基本の「楽しく食べる」を学びあった。

［学習講演感想］

・食事の最中の注意点、誤嚥があった時の対処の仕方を確認しておくことは、避難訓練と同じくらい大事な事という言葉と、養育者が責任感で頑張り過ぎないように「チームアプローチ」で支える大切さが印象に残りました。
・給食場面が楽しいかおいしいかが一番大切という言葉に共感、どうしても「食べさせなくては…」「偏食を直したい…」という思いが強くなりがちで、保育士として認識を改めていくための学びになった、職場全体で活かしたい。
・食べるときに要求や拒否が出やすいとの言葉、なるほどと思いました。おいしく食べて共食しながらコミュニケーションの発達につなげていきたい。

【分散会】

園長、主任、中堅、病児などの区分による分散会とし、７班に分かれ、討論・活動交流を行いました。

［分散会感想］

・院内保育所、小規模ならではの悩みを発言しました

が、皆さんが当事者性をもって一緒に考えて下さり、具体的なアドバイスをいただき、直ぐに実践できることも吸収できとても貴重な時間でした。
・様々な保育所が、多くの課題を抱える中でも展望を見いだそうとしている姿勢に、地域の認可保育所が年度途中入園（育休明け）可能となり院内保育所の必要性が低くなり悩んでいましたが、前向きに考えていこうと思えました。
・困ったことは、保育世話人の方に相談してもいいのだという民医連院内保育所の絆を感じました。

［指定報告感想］

・私たちの院内保育園も病院の経営や少子化の影響に不安を感じながら保育園を運営しています。『こんな風に繋がりを大切に、学びながら保育して保育園の楽しさを発信していったら不安ばかりではなく、明るく前向きに保育実践出来るのかもしれない。困難に立ち向かえるのかもしれない。』と元気をもらえました。
・大幅に企業主導型を増やした結果、現在取りやめや休止の施設が多い事、充足率が低い事を知りました。保育の質の向上はもちろん、地域のニーズにも応えられる様、病院の特色の一つとして保育所も参加していきたいです。

［全体の感想］

・実態調査に基づいて、全国の院内保育園の様子を知ることが出来て、とてもためになりました。共に学び、実践する仲間がいる事を感じられ参加出来て良かったです。医療を支え、地域社会を支える事に繋がっている院内保育所で働く事を更に誇りに思いました。
・様々な保育園が、様々な課題を抱える中でも展望を見いだそうとしている姿勢に刺激を受け、自園の展望も前向きに考えていこうと思いました。
・情勢の事など、機会がある度、分かりやすい説明に感謝です。現場の声も吸い上げていただきありがたいです。
・保育世話人会で、保育士は国家資格で専門職であるという認識を民医連の中で浸透させてほしい。特に、院内保育以外の病棟保育、病児保育、外来保育は医療機関の中での位置づけになるので、保育士の関わりによって子どもたちの成長を支えていることが、治療成績として数値として可視化できず、評価されにくいように感じています。

【閉会あいさつ】

全日本民医連　保育世話人　中里久美子

前回に続きコロナ禍によりオンラインでの開催となりましたが、全国の民医連の保育所で働く保育士が集い学び合い、交流したことは、今後の発展につながって行くものと思います。本日学んだことを保育所に持ち帰り共に頑張って行きましょう。今後の予定として、2024年１月に厚労省要請（ハイブリッド）を予定しています。国に直接保育の実態や要望の声を届ける機会として是非参加していただきたいと思います。